

第6学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『武士の政治が始まる』

(教科書：『小学社会 6 上』 p. 38～46／学習指導要領：内容（1）ウ）

2. 小単元の目標

武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きについて関心をもち、意欲的に調べることを通して、貴族に代わって武士による政治が始まったことや人物の願いを理解できるようにする。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きについて関心をもち、意欲的に調べたり考えたりしようとしている。	武士による政治をめざした人物の願いや働きを考えるとともに、元寇後、ご恩と奉公の関係が崩れ鎌倉幕府は倒されたにもかかわらず、なぜ武士の政治は続いたのかを考え、根拠をもって説明している。	武士の政治の始まりについて、年表や地図、文化財や資料などを活用して必要な情報を収集し、ノートなどにわかりやすくまとめようとしている。	武士がおこり、貴族に代わって力をつけてきたこと、平家を滅ぼした源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士がより勢力をもつようになったこと、元との戦いが鎌倉幕府に大きな影響を及ぼしたことなどを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

校区である徳島市国府町には、阿波史跡公園や考古資料館、国分寺を含む四国八十八ヶ所のうち四ヶ寺、源平合戦の史跡などがあり、歴史の息づく町である。本学級の児童は、火起こし体験や勾玉作り、古墳見学などの体験学習や調べ学習に意欲的に取り組み、歴史への興味・関心も高い。

そこでさらに歴史的事象に興味をもち、学習問題を解決するために、想像図・地図・年表・肖像画・逸話などのいろいろな資料を意欲的に調べ、理解したことをわかりやすく表現させたい。また、歴史上の人物について、その思いや業績を知り、その人物の活躍によって時代がどのように変化したかを考えることで、子どもたちが共感的に理解を深めたり、国や郷土に愛着をもったりすることにつなげていきたいと考える。

(2) 教材について

本小単元では、武士のおこりから、源平の戦い・鎌倉幕府の始まり・元との戦いについて調べ、天皇を中心とした政治から、武士による政治が始まったことを理解させることをねらいとしている。

したがって、武士が行おうとしたのはどのような政治だったのかを、人物の願いや働きに焦点をあてて考えさせていく必要があると考える。

鎌倉幕府はご恩と奉公による政治体制が確立しつつあったにもかかわらず、元寇によって大きく揺らぐ。肥後国の竹崎季長は懸命に働いたのに恩賞をもらえず、幕府に訴えに行く。恩賞を求める竹崎季長と御恩奉行安達泰盛との絵図から二人の主張を考え、話し合う中で鎌倉幕府の政治体制について考える。そして、幕府は衰退していくがその後も武士の時代が続いていくことを年表からとらえ、貴族の政治ではないものを人々が求め、それを実現しようとした武士が時代を変えたことを理解させたい。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小单元においても、効果的な資料の提示は重要である。貴族の屋敷と武士の館の想像図、源平の戦いや『蒙古襲来絵詞』などの絵図、モンゴルや元軍の進路を表す地図などを比較したり、読み取ったりすることにより、理解を深めることができる。また、関係図にまとめたり改めて問い直す場面を設定したりし、それを構造的な板書に表すことにより、児童の思考を整理・深化させ、中心概念の可視化を図りたい。

5. 小単元の指導計画（総時数7時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (学習問題をつくる)	武士の生活の様子、武士と貴族の違いに着目して、自分なりの疑問をもとにした学習問題をつくるとともに、調べていこうとする意欲をもつ。	○武士の館と貴族の屋敷の想像図を比較して、違いに気づく。 ○自分の疑問を整理する。 ○グループごとに整理し、学級全体で学習問題をつくる。 貴族に代わって、武士はどのような政治を行おうとしたのだろう。	◎武士の館（教科書6上 p.38～39）と貴族の屋敷（同 p.32）の想像図 ◇武士の生活と貴族の生活をわかりやすく比較できるように、比較する視点を与える。 ◆武士の政治について関心をもち、自分なりの問題意識をもとに、学習への意欲をもっている。 （関・意・態／発言）

② (予想・計画)	武士の世の中はどんな時代だったか予想し、調べる計画を立てる。	○前時につくった学習問題を確認し、自分なりの予想を立てる。 ○個々の予想をグループごとに話し合い、調べていくポイントを整理する。 ・なぜ武力が必要だったのか。 ・平清盛はどんな政治をしたのか。 ・源平合戦はどんな戦いだったのか。 ・源頼朝はどんな政治をしたのか。 ・元寇とは何か。 ・貴族の政治との違いは何か。	◎教科書・資料集 ◇発問を工夫したり、資料を提示したりすることで、予想したり調べる方法を考えたりできるようにする。 ◆自分なりの予想を立て、それらについて確かめるための方法を考えている。 (関・意・態／発言)
③ (調べる)	平清盛の政治や源氏と平氏の戦いについて調べ、武士がどのようにして力をもつようになったかまとめる。	○朝廷や貴族の争いの中で、武士が力をつけていったことを理解する。 ○平清盛は武士なのに貴族のような政治を行ったために不満が高まり、源平合戦が起こったことを調べ、まとめる。 ○源頼朝は弟の義経の活躍もあり、ついに平氏を滅ぼしたことをまとめる。	◎教科書 6 上 p.40, 41 の肖像画や源平合戦の絵図、経路図 ◎資料集・パンフレットなど ◇絵図や地図などの資料を提示することにより、興味・関心を高めることができるようにする。 ◆平氏の隆盛から源平の戦いについて調べることを通して、武士が力をつけていった経緯を理解している。 (技・知・理／発言・ノート)
④ (調べる)	源頼朝はどのように武士を従えていったか調べまとめる。	○鎌倉に幕府を開いたのは、敵から攻められにくい地形で、朝廷の影響を受けにくい場所だったからであることを理解する。 ○幕府と御家人は、ご恩と奉公の関係で強く結ばれ、「いざ鎌倉」という言葉にもその関係が表れていることを理解する。 ○御成敗式目を制定したり、各地に守護や地頭をおいたりして、全国に支配を広げ、朝廷を破ったことで武士による政治が強まったことを理解する。	◎教科書 6 上 p.42, 43 の鎌倉の地形図や肖像画、ご恩と奉公の関係図 ◎資料集など ◇鎌倉の地図やご恩と奉公の関係図、政子の訴えなどの資料を提示することにより、鎌倉幕府のしくみについて理解することができるようにする。 ◆鎌倉幕府がご恩と奉公の関係で武士を従えていたことや幕府のしくみなどを理解している。 (知・理／発言・ノート)

⑤ (調べる)	元との戦いについて調べ、鎌倉幕府にどのような影響を与えたか調べまとめる。	○元と幕府の兵法の違いを『蒙古襲来絵詞』から読み取る。 ○2回目の襲来に備えて防塁を造成するなど、元との戦いが幕府に大きな影響を与えたことを理解する。 ○苦戦を強いられながらも幕府のために戦ったのに、新しい領地がもらえず武士たちの不満が高まっていったことを理解する。	◎教科書6上 p.44, 45 の元の地図、『蒙古襲来絵詞』、防塁の写真 ◎資料集など ◇絵図や地図を提示することにより、元の規模や兵法の違いを考えさせ、命がけで戦ったにもかかわらず、恩賞をもらえなかった武士の不満を理解することができるようにする。 ◆元との戦いで武士たちは幕府のために戦い抜いたことや、幕府は恩賞を与えることができず武士たちが不満をもったことを理解している。 (知・理／発言・ノート)
⑥ (確かめる) 【本時】	鎌倉幕府は倒れたのに、なぜ武士の政治が続いたのかを考えることを通して、武士がご恩と奉公の関係や政治のしくみを整え、武士による新たな政治を始めたことについて理解を深めることができる。	○竹崎季長と幕府のやりとりをロールプレイすることにより、元寇によって武士の不満が高まり、鎌倉幕府が倒れたことを理解する。 ○藤原道長・平清盛・源頼朝の政治を比較し、平氏は貴族のような政治をしたから源氏に滅ぼされたものの、武士が力をつけ、源頼朝が政治のしくみをつくり、江戸時代まで続く武士の政治が始まったことを理解する。	◎幕府に直訴する竹崎季長の絵図 ◎ご恩と奉公の関係図・肖像画・年表・資料集など ◇幕府と武士の二つの立場で話し合う場面を設定することにより、ご恩と奉公の関係が崩れたことを理解できるようにする。 ◇貴族と武士の世の中を、観点別に比較できるように板書を工夫する。 ◆貴族に代わって武士による政治が始まったことについて理解を深めている。 (知・理／ワークシート)

⑦ (広げる)	武士の時代が長く続くためには、どんなことが必要なのか考える。	○元寇のために、主従関係が崩れ鎌倉幕府は倒れたが、この後、武士の時代が長く続くためにはどんなことが必要なのか考える。	◎これまでの資料・ノート・年表・教科書・資料集など ◇年表などを提示し、これから武士の政治について考えることができるようにする。 ◆今までの学習から、武士の政治のあり方を考えている。 (思・判・表／発言・ノート)
------------	--------------------------------	--	---

6. 本時の指導（第6時）

（1）本時のねらい

鎌倉幕府は滅びたのに、なぜ武士の世の中が続いたのかを考えることを通して、武士がご恩と奉公の関係や政治のしくみを整え、貴族に代わって武士による政治を始めたことについて理解を深めることができるようにする。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15	○前時までの学習をふり取り、元寇によって幕府と武士の関係がどのようになったかについて考える。 T：貴族に代わって武士が政治を行ってきましたね。元寇の際、幕府や御家人たちはどうしたでしょう。 C：幕府は、御家人たちを九州に集めて、元軍と戦った。また、2回目の攻撃に備えて、防塁を築かせた。 C：御家人たちは、「てつはう」等の新兵器や集団戦法に苦戦しながらも、幕府のために命がけで戦った。 C：2回とも暴風雨のために元軍は引きあげたが、御家人たちは幕府から恩賞をもらえなかった。 T：ここに、竹崎季長が幕府に恩賞をもらえるように訴えている絵図があります。幕府と御家人の立場で話し合ってみましょう。 C：(御家人の立場) 命をかけて元軍と戦ったのに…何でもいから恩賞をください。 C：(幕府の立場) 元軍と戦っても新しい土地は得られなかったのだから、恩賞は与えられない。 C：戦いのために多くのお金や労力も使ったのだから、恩賞をもらうのは当たり前だ。 C：幕府もどうにかしたいができない。ご恩と奉公の関係が崩れてしまうことになる。	◎『蒙古襲来絵詞』、防塁などの写真、ノート ◇前時までの学習を想起させることにより、本時のめあてをつかむことができるようにする。 ◎竹崎季長と御恩奉行・安達泰盛の絵図 ◎ご恩と奉公の関係図 ◇幕府と御家人の両者の立場で考えさせたり、ご恩と奉公の関係図を示したりすることにより、ご恩と奉公の関係が元寇により成り立たなくなり、鎌倉幕府が衰退していったことを理解できるようにする。

10	○キーワードを示したワークシートを使い、本時のまとめをする。 T：今日のキーワードは、「貴族」「武士」「新しい時代」です。この三つのキーワードを入れて、ふり返りを書きましょう。 C：平氏や源氏は貴族に代わり、武士による政治をめざし、新しい時代を開いた。 C：貴族に代わって政治を行った武士は、ご恩と奉公の関係や政治のしくみを整えた。このしくみがしっかりしていたので、武士が築いた新しい時代は長く続いていったと思う。 C：元寇によって鎌倉幕府は滅びたが、武士が力で治める新しい時代となったから、貴族の世の中には戻らなかった。	◎キーワードを示したワークシート ◇キーワードを示すことにより、貴族に代わって武士による政治が始まったことについて、まとめることができるようにする。 ◆貴族の政治に代わって、武士による政治が始まったことについて、理解を深めている。 (知・理／ワークシート)
----	--	---